平成１４年度自動車アセスメント実施要領（案）

Ｉ．チャイルドシートの安全性能等試験について

１．試験対象のチャイルドシートについて

　試験対象とするチャイルドシートは国内で販売（輸入品等も含む。）されているもので、国が定める基準（いわゆる「新基準」（※注）のみとする。）並びにそれと同等の基準（米国と欧州の基準）に適合しているものから選定します。選定にあたっては次の原則に沿うとともに、市場において一定のシェアを確保しているチャイルドシートメーカーの製品が試験の対象となるように選定を行います。なお、チャイルドシートメーカーから申し出があったチャイルドシートも対象とします。

①　乳児用、幼児用を対象とします。

②　市場で販売されている台数の多いチャイルドシートを対象とするため、平成１３年４月から平成１４年３月までの１年間の出庫台数の実績が上位のものから選定します。但し最近モデルチェンジしたものについては前の販売実績等も考慮します。

③　試験実施時点で市場において既に販売されていないと思われるチャイルドシートについては対象から外します。

④　評価試験で用いる自動車の座席シートに取り付けが不可能とユーザーに告知しているチャイルドシートについては対象から外します。

⑤　昨年度アセスメントを実施したチャイルドシートについては対象から外します。

注）チャイルドシートについては、いわゆる「旧基準」による製品の製作が今年末まで可能であり、それ以降はいわゆる「新基準」（２０００年１月に施行された国内基準）に基づく製品の製作のみが可能となります。また、米国と欧州の基準に基づく製品は、国内基準と同等と見なされています。なお、旧基準による製品も、引き続き使用できます。

２．評価試験について

　評価試験は、（１）前面衝突試験と（２）使用性評価試験を行います。試験は自動車事故対策センターが担当します。



（１）前面衝突試験

　骨組みのみで組み立てられた自動車（エスティマ）の２列目に座席を取り付け、その座席の右側にチャイルドシートを装着して、乳児用チャイルドシートには乳児用ダミーを、幼児用チャイルドシートには幼児用ダミーを搭載し、時速５５ｋｍでの前面衝突時と同様の衝撃を発生させ、ダミーに発生する傷害等の程度を評価します。

なお、国の法定基準（道路運送車両の保安基準）で実施される適合性確認のための試験と比較して、衝突速度が１割増しの時速５５ｋｍで実施します。これは、自動車アセスメントの評価試験と同じ速度です。

また、試験実施に用いる座席シートは、装置型式指定の基準の試験では、試験用の座席シートを用いるのに対し、実際の自動車の座席シートをそのまま用います。

（２）使用性評価試験

ユーザーによる自動車の座席への確実な取り付けがしやすいように配慮されているかなどについて、使用実態を反映した評価項目毎に複数名のチャイルドシート専門家による判定を行い評価します。

３．評価方法について

評価方法は、次のとおりです。

（１）前面衝突試験

① 次の評価項目毎に計測及び観察によって評価します。

＜乳児用＞

- 衝突後のチャイルドシート取付部等の破損状況。（◎、○、×による評価）
- 衝突直後のチャイルドシートの背もたれの角度。（◎、○、×による評価）
- 衝突直後のダミーの頭部先端部の移動位置。（◎、○、×による評価）
- 衝突時にダミーにおいて計測される胸部合成加速度。（◎、○による評価）
- 衝突時にバックルが解離したか。（該当する場合は×の評価）
- 衝突時にチャイルドシート本体が座席ベルトから放出したか。（該当する場合は×の評価）

＜乳児用（ベッド型）＞

ベッド型としての評価は、上記＜乳児用＞の「衝突直後のチャイルドシートの背もたれの角度」「衝突直後のダミーの頭部先端部の移動位置」に代え、衝突時のダミーの拘束状態（ダミーの頭部のベッドからのはみ出し、ベッド底面の傾き）や衝突直後のダミーの頭部移動量等で評価することとしています。

＜幼児用＞

- 衝突後のチャイルドシート取付部等の破損状況。（◎、○、×による評価）
- 衝突直後のダミーの頭部移動量。（◎、○、×による評価）
- 衝突時にダミーにおいて計測される頭部合成加速度。（◎、○による評価）
- 衝突時にダミーにおいて計測される胸部合成加速度。（◎、○による評価）
- 衝突時にバックルが解離したか。（該当する場合は×の評価）
- 衝突時にチャイルドシート本体が座席ベルトから放出したか。（該当する場合は×の評価）

- 衝突時に、ベルトがダミーの腹部等身体の弱い部分を圧迫する等子供に危害を与える恐れがないか。（該当する場合は×の評価。なお、腹部圧迫については、面圧計（※別紙３参照）を使用して定量的に測定することとしていますが、評価方法については今後更に検討することとしています。）
- 衝突時にダミーが前方移動し、シートから脱落していないか。（該当する場合は×の評価）

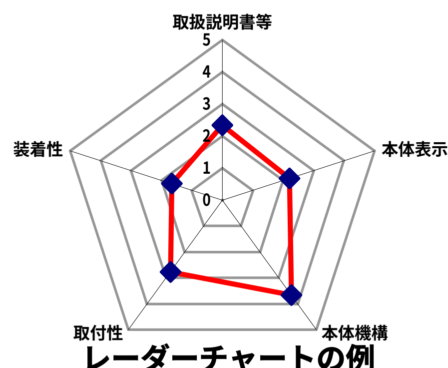
② ①に列挙した評価項目に関して、全ての評価項目のうち１つでも×があれば「推奨せず」、×が１つもない場合で評価項目で４つ◎の場合は「優」、◎が３つで○が１つの場合は「良」、それ以外は「普通」で公表する予定です。（別紙１参照）

（２）使用性評価試験

① 次の評価項目毎にチャイルドシートを点検し実際に取り付ける等によって評価します。（別紙２参照）

- ［取扱説明書等］取扱説明書や梱包箱に注意、警告の表記がなされているか、子供の体格別の使用方法等が記載されているかなど、取扱説明書等が適切な取扱方法について理解しやすいものかを評価します。
- ［本体表示］わかりやすい表現等を用いているか、製品に関する問い合わせ先が記載されているか、国の基準適合証が表記されているかなどユーザーにとってわかりやすい表示がされているかを評価します。
- ［本体機構の安全性］リクライニングなどの可動機構の操作において確実にロックできぐらつかないなどが確保できるかを評価します。
- ［取付性］ベルトの取り回し性やシートベルト固定のしやすさなどチャイルドシートの取り付けのしやすさについて評価します。
- ［装着性］ハーネスが調整しやすいか、バックルが子供の力で解除されないか、ダミーを着座させるまでの手順が複雑でないかなど装着のしやすさを評価します。

② ①に列挙した具体的なチェック内容に関して１点から５点まで評価し、その後、評価項目毎に平均点を算出し、レーダーチャートで公表する予定です。



レーダーチャートの例

II．自動車の安全性能等試験について

１．対象車種について

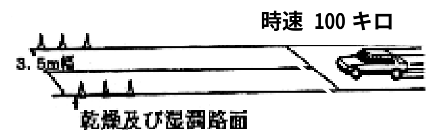
対象となる車種の選定は、次の原則に沿っています。①直近６ヶ月の販売実績が上位の車種から選定します。但し最近モデルチェンジしたものについては前のモデルの販売実績等も考慮しています。②早期にモデルチェンジが行われる予定の車種は選定しません。③１メーカーあたり６車種を上限としています。④これまで実施した車種は除きます。⑤自動車製作者等からの申し出による車種も予定しています。

２．比較試験項目について

比較試験は、高速ブレーキ試験、フルラップ前面衝突試験、オフセット前面衝突試験、側面衝突試験を予定しています。試験は自動車事故対策センターが担当します。

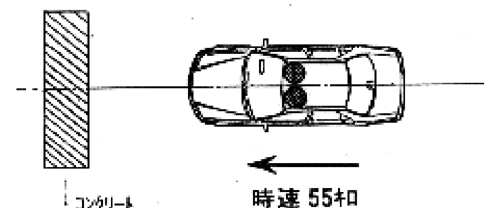
（１）高速ブレーキ試験

自動車を乾燥路面及び湿潤路面において時速１００kmから急ブレーキをかける試験。



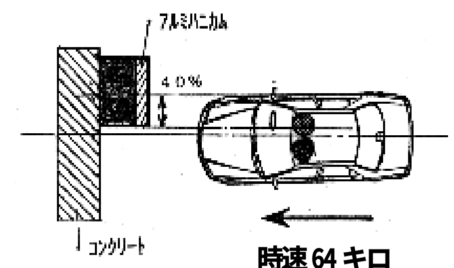
（２）フルラップ前面衝突試験

運転者席及び助手席にダミーを搭載した自動車を時速５５kmでバリア前面に垂直に正面衝突させる試験。ダミーに与える衝撃が大きいため、その衝撃を緩和するためにシートベルト、エアバッグ等の乗員拘束装置及び車体の衝撃吸収性能の評価に適しています。



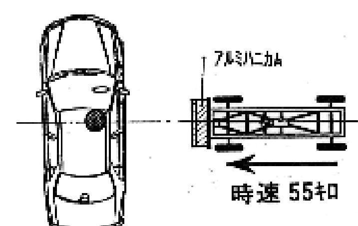
（３）オフセット前面衝突試験

運転者席及び助手席にダミーを搭載した自動車の運転席側一部（車幅４０％）を時速６４kmでアルミハニカムに垂直に前面衝突させる試験。車両の一部で衝撃を受けるため、車体変形が大きく、乗員の生存空間等の評価に適しています。



（４）側面衝突試験

運転者席にダミーを搭載した自動車の運転者席側の側面に時速５５kmで台車を衝突させる試験。



３．評価方法について

評価方法は下記のとおりです。

（１）高速ブレーキ試験

乾燥路面（路面温度条件 35.0±10.0℃）、湿潤路面（路面温度条件 27.0±5.0℃）における停止距離を測定します。幅 3.5 mの車線からはみ出したかどうかも確認します。

（２）フルラップ前面衝突試験及びオフセット前面衝突試験

①ダミー各部位の傷害値と、車体の変形量を計測して評価します。

（ダミーの傷害値）

頭　部：頭部傷害値（ＨＩＣ）

頸　部：引張荷重、剪断荷重、伸張モーメント

胸　部：胸部合成加速度、胸部変位

下肢部：大腿骨荷重、脛骨荷重

（車体変形量）

ステアリング上方・後方変位量／ブレーキペダル上方・後方変位量

②計測結果は、運転者席及び助手席毎に、ダミー傷害値及び車体変形量の計測値に基づき各部位について４点満点で点数化し（別紙４参照）、それを合計して総合点数を算出のうえ、５段階評価指標で公表します。さらに、ドアの開扉性、乗員の救出性並びに衝突後の燃料漏れの有無について評価し公表します。

（３）側面衝突試験

①ダミー各部位の傷害値を計測して評価します。

（ダミーの傷害値）

頭　部：頭部傷害値（ＨＰＣ）

胸　部：胸部変位

腹　部：腹部合計荷重

腰　部：恥骨荷重

②計測結果は、運転者席のみ、ダミー傷害値の計測値に基づき各部位について４点満点で点数化し（別紙５参照）、それを合計して総合点数を算出のうえ、５段階評価指標で公表します。さらに、ドアの開扉性、乗員の救出性並びに衝突後の燃料漏れの有無について評価し公表します。

（４）総合評価

運転者席に関しては、フルラップ前面衝突試験、オフセット前面衝突試験、側面衝突試験の３種類の衝突試験の各々の点数を合計したうえ、６段階評価指標

（★～★★★★★★）で公表します。また、助手席に関しては、フルラップ前面衝突試験、側面衝突試験（運転者席の点数を流用）の点数を合計し、運転者席と同様の方法で公表します。（別紙６参照）

Ⅲ．自動車の安全装置の装備状況

現在市販されている乗用車などについて各車種毎に次の項目等の装備状況を公表します。

ブレーキ：ＡＢＳ、ブレーキアシスト
エアバッグ：運転者席、助手席、サイド
シートベルト：アジャスタブルベルトアンカー、プリテンショナー、
　　　　　　　フォースリミッター
チャイルドシート：固定機能付き、内蔵シート、共通取付具方式対応